

平成30年1月24日

関係各位

熊本大学大学院生命科学研究部産科婦人科学
教授 片渕秀隆

拝啓

分子標的治療薬の婦人科がんでの本邦の承認は、2013年に卵巣癌に適応となった血管内皮増殖因子（VEGF）に対する抗体薬であるベバシズマブでした。そして、先週、第2の薬剤として、PARP（Poly ADP ribose polymerase）阻害剤であるオラパリブが白金系製剤に感受性のある再発卵巣癌に承認されました。本剤はBRCA遺伝子に異常がある卵巣癌に対する効果が最初報告されましたが、当初予定されていたコンパニオン診断を行わずに使用できることになりました。遺伝性乳癌卵巣癌（HBOC）の原因遺伝子であるBRCA1遺伝子を1994年に米国で発見した三木義男教授（東京医科歯科大学）の特別講演を絶好のタイミングで、2月17日（土）に開催の第227回熊本産科婦人科学会で予定しています。

前回もご案内した今春出版される「産科婦人科用語集・用語解説集 改訂第4版」の作成にあたり、4つの専門領域に担当幹事がいますが、生殖・内分泌領域は大場 隆准教授が担当しています。その中で、委員会でも新たに出た疑問である「生殖器」と「性器」の使い分けについて、大場先生が執筆したコラムを貴重な資料として紹介します。

「生殖器」と「性器」は同一とする辞典もあるが、生物学における使い分けは、生物が有性生殖を行う際に、生殖に直接関連する器官が「生殖器」、交配行動（性交）に関与する器官が「性器」である。生殖器はさらに「外部生殖器」と「内部生殖器」に分類され、それぞれの通称として「外性器」「内性器」が用いられるため、「性器」という用語が指し示す範囲には若干の混乱が生じているものと思われる。ヒトの「性器」は外部生殖器である外陰に内性器の一部を加えたものになるが、内性器はどこまでが「性器」なのだろうか。膣は問題ないとして、子宮腔部もまた性感との関連が指摘されているので、どうやら子宮までは「性器」に含めてかまわないようだ。そうすると「性器脱」との齟齬もなくなる。診療録や論文を書いていて、文脈の中で「生殖器」と表現するか「性器」とするか半断に迷うことがある。かんたんな見分け方としては、表したい対象に卵管が含まれる場合は「生殖器」、含まれなければ「性器」としてよさそうである。ただし「性器結核」や「性器クラミジア感染症」といった語については卵管炎が矛盾するのだが、古い文献には「女性生殖器結核」「泌尿生殖器結核」という表記があるので、もとは「生殖器結核」だったものが「性器結核」に変わったのかもしれない。なお乳房は生殖器に含まれないが、西洋文化においては女性の乳房は男性に性的刺激を与えるものであり、また露出することが法的な規制の対象とされていることから、アフリカや南アメリカの一部の地域を除いて女性の乳房は「性器」に含まれるのだろう。

敬具